

日本百街道紀行

街道とまちづくり

第40回

中山道

おもてなし文化のDNAを未来に 外国人市民と女性が活躍するまち

美濃加茂市長(岐阜県) 伊藤誠一



外国人市民はパートナー

令和元年10月20日、日曜の午後
の穏やかな秋晴れのもと、第35回
おん祭MINOKAMO秋の陣の
姫行列イベントが中山道太田宿地
内で開催され、艶やかな衣装を着
た姫を見ようと2万人を超す観衆



おん祭MINOKAMO秋の陣 姫行列

が押し寄せた。

このイベントで恒例となってい
るのが、行列の参加者に多くの外
国人市民が参加していることで、
江戸時代の歴史に基づく催しであ
りながら、美濃加茂市らしい多国
籍の人々による行列となっている。

本市は、人口5万7000人の
うち、その約10%が在住外国人市
民であり、この割合は全国の都市
の中で、最も高いものとなっている。
市内には、日系ブラジル人や
フィリピン人の方々を中心に
37の国や地域の人々が生活されて
いるが、彼らは自分たちだけのコ
ミュニティを形成することなく、
日本人と一緒に地域に溶け込んで
暮らしている。最近では、一戸建
ての住居を構える方も多くなり、
中には地域組織である自治会に加

入し、地元の消防団員として地域
の安全安心のために活動されてい
る方もいる。

また、市内の小中学校には、クラ
スの3分の1が外国人児童の学校
もあり、子どもたちは、国籍を問
わず一緒に学んでいる。外
国人児童の中で日本語の指導が必
要となる子どもたちについては、



姫行列に参加する外国人市民

その日本語能力に応じて日本語で
の教育を指導する「のぞみ教室」に
入校し、そこで日本語や日本の
習慣などを数カ月間学んだ後、居
住する地区の学校に転入すること
になっている。

女性の起業支援

今年でオープン3年目を迎える
ソレイユは、中山道太田宿「本陣
門」のすぐ西側に雑貨屋として開
業した。オーナーは市内在住の女
性で、市が推進する女性起業支援
事業「姫biz」(ひめbiz)の後押
しを得て、念願の自分のお店を持
つことになった。

ソレイユは、「姫biz」の窓口
で開業前から開業後の資金計画や
事業のオリジナル化などを綿密
に相談し晴れて開業となったが、

今では太田宿を訪れる観光客だけでなく固定客やリピーターも増えている。彼女は、「姫biz」と出会えたことにより、より自分らしい生き方や社会とのつながりを確信し、起業を決意したと話している。

本市は、まち・ひと・しごと創生総合戦略を、女性に特化して「みのかもで、叶えられる夢がある！」をコンセプトに、総合戦略計画「カミノ」(ポルトガル語で「道」の意味)としてまとめているが、「カミノ」は、女性のライフスタイル、出会い結婚、妊娠・出産、子育て、教育を五つの柱として、さまざまな施策を展開している。

その施策の一環として、女性の夢の実現を支援する「姫biz」を



カミノによる女性活躍支援の様子

設置しており、その運営も女性が中心の一般社団法人が担っている。起業に際しての女性らしいきめ細やかなサポートが特徴で、起業のみでなくイベント開催やボランティアなどでも相談者に寄り添った相談ができることが強みである。

相談は市内の方に限定しておらず、市外県外からの相談も受け付けるが、これまでに市内だけでも30件の女性起業家らが誕生し、今年年間当たり延べ400件から500件の相談が寄せられており、これからも女性の夢を積極的に支援していきたいと考えている。

「姫街道」のDNA

本市は、江戸時代の中山道の宿場町を基として発展してきた。中山道は、難所が少なく女性でも往来が楽なことや、徳川第14代将軍家茂の正室として皇女和宮が姫行列にて降嫁したこと、別名「姫街道」とも呼ばれている。昔から交通の要衝として栄えた太田宿の人々が、長年多くの旅人を温かく出迎えてきた。無事を祈って送り出すという文化を育み、それがDNAとなって、現代の本市の

人々の根底に脈々と受け継がれている。

外部からの人に対して構えることなく、さりげなく受け入れる気持ちを常に持つことで、他の地域から移り住む日本人も外国人も、そして女性も、誰もが隔たりなく暮らせるまち、それが美濃加茂市

一口メモ

中山道と「旧太田脇本陣林家住宅」

中山道は、江戸時代徳川幕府により整備された五街道の一つ。東海道と並んで参勤交代路として利用され、太田宿は日本橋から数えて51番目の宿場町である。



である。これからも、女性や外国人市民などが生き生きと暮らす市の特色を生かし、みんなが互いに必要なパートナーとして、そして、全ての人自分らしく生きることが叶うまちとして、おもてなし文化のDNAをさらに発展させていきたい。

国重要文化財「旧太田脇本陣林家住宅」は、太田宿の脇本陣で、創建年代は明和6(1769)年とされている。

林家は、江戸中期から脇本陣を勤める傍ら、庄屋として尾張藩太田代官の指揮下で宿の行政事務に携わり、また、家業として質屋や味噌・溜(醤油の起源ともいわれる、味噌を仕込んだ後に浸出した液のこと)の製造販売も営んでいた旧家。
主屋・表門・質倉・借物倉・隠居家などの建物群がまとまって残っており、宿場の拠点施設としての屋敷構えを伝える貴重な遺構である。

企画協力…全国街道交流会議「街道交流首長会」